



アバン仙台 Jr. Youth News 2018年 1期

第39回

チームの成長感じた戦い ~ 2018年度に向けて走る ~



最近の新人チームはよく話しています。この日も円陣や試合中に話し合いが多かったです。「いい試合内容」を期待できました。



円陣もいい雰囲気



← 待望のリーグ初ゴールの場面。1年生の荒井優輝(ゆうき)君が先制点。

→ その後、キャプテンの栗原蓮(れん)君が、ドリブルで中央突破し、追加点。
【エスペランサ登米戦】

先制点の優輝くん



蓮くんの追加点

来年度への「手こたえ」

今年一番の収穫は、「実感」できたことです。

現2年生たちは、それぞれのいい部分を持ちながらも、「基礎」の部分で苦労していました。例えば、「観察力」と「判断力」を伴った「ボールを扱う技術」と、サッカーに必要な「オフ・ザ・ボールの動き」の強化が必要でした。

4月から少しずつ修正し、夏場の菜の花杯での優勝も経験しましたが、自分たちがU15リーグを戦いぬくために、何が自分たちの武器になるのかと模索してきました。

また、チームの一員として大事な取り組みを“自分なり”に頑張っていたと思いますが、どちらかと言えば失敗を繰り返しながら、少しずつ成長していきました。ただ、本当に活動することで「成果」を実感できる何か、“きっかけ”が選手には必要でした。

そこに大きな道筋となったのが、クラブユース東北大会出場でした。この大きな大会を経験したことで、新人戦に向けてチームづくりが加速し始めます。

最初は、上手いかわからないこともありましたが、仲間からそれまで以上に厳しく求められるのですから。平日練習や紅白戦、試合で共にプレーしつつ辿り着いたのは、3年生たち以上に「コンパクトな距離間での連携」でした。自分たちの走力や体力、現時点での身体の強さも含め、「連携のスピード」で勝負できる選手がいるので、そこに力を入れてきました。

そして新人戦。予選では、硬さから少し発揮できなかった連携も、順位トーナメントでの3試合は、思い通りのプレーもでき、攻守での成長を感じました。距離感が整理されたことで、サポートの質も格段によくなりました。選手からも試合後、「いい試合だった」「もっとやれた」という感想も聞かれ、プレー中の会話が増えたことも大きかったです。とても内容の濃い3試合を経験できた選手と、来年度リーグ戦に向けて更にチーム強化していきます。

【クラブユース新人大会 9位決定トーナメント 結果】

- ◆第一試合 ○ アバンツァーレ 2 VS 0 エスペランサ登米
得点者：荒井優輝(1年)、栗原蓮(2年)
- ◆第二試合 ● アバンツァーレ 0 VS 3 セツバSC
- ◆第三試合 ● アバンツァーレ 0 VS 0 ラソス仙台
(PK戦 アバン 3 : 5 ラソス)

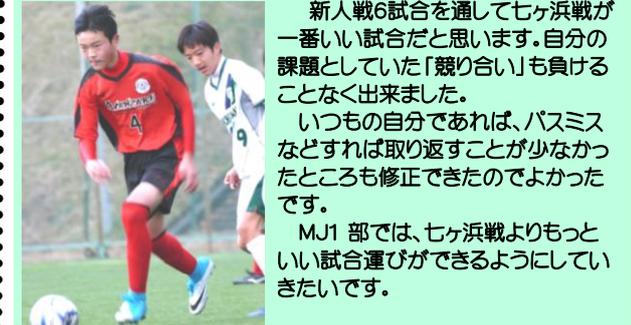
成長の大きかったDF4人 樹くん(2年) 省吾くん(2年) 玲太くん(2年)



今回の新人戦。上下写真で紹介する4選手の頑張り、そして成長が大きかったです。

それぞれの能力も、これからもっと伸びてくると思います。自分からきっかけを掴めさえすれば、きっとこの4選手たちが、今よりもっと中心となる選手となり、来年度のリーグ戦を戦う大きな力となってくれることでしょう。

富永 滯雅(とみなが れいが)くん



新人戦6試合を通してセツバ戦が一番いい試合だと思います。自分の課題としていた「競り合い」も負けることなく出来ました。

いつもの自分であれば、パスミスなどすれば取り返すことが少なかったところも修正できたのでよかったです。

MJ1 部では、セツバ戦よりもっといい試合運びができるようにしていきたいです。

【今後の自分自身へ・MJ1 部リーグへの意気込み】

MJ1 部では、新人戦の時より他のチームも強化してくるだろうから、今まで以上に基礎的なところにも取り組み、1点もとらせないようにする。

自分の体格を活かしてプレスをかけ、とにかく強気で強くいく。技術的にはドリブル中の「こねる」ことを修正し、相手に奪われないドリブルに強化していく。

「佐藤翔真(しょうま):1年生」



はじめまして。ジュニアユースに入りました。佐藤翔馬です。

アバンに入った理由は、2年生の菊地翼先輩とサッカーがやりたかったのと、自分の実力を試してみたかったからです。

僕は、元々がフィールドプレイヤーなので、足元のプレーもできますが、その長所も最大限使えるように強化していきたい。

そして、キーパーにとって大事な基礎を強化していきたいです。

また、来年度のリーグ戦ではスタメンをとり、アバンが無失点で大会が終わるようにし、正ゴールキーパーになります。

活動してみて先輩たちも、優しく楽しくサッカーができています。みなさん、宜しくお願いします。



選手たちの活動について

ジュニアユース選手たちの「学生」としての活動について紹介します。
選手によって、サッカー以外の部活動、特に「走り」の強化のために陸上部が多い傾向にあります。過去には、テニスなどステップワークの強化のために選択した選手もいます。

また、学校の委員会や塾との時間を調整しながら、平日練習に励む選手もいました。2年生になると、学習も大変になった選手もいましたが、学校や塾の先生とも話し合いながら学力アップに励んでいました。

現在の選手たちも同じように、「文武両道」に取り組んでいます。受験勉強に入った選手たちも試行錯誤しながら「習慣」にしてきたからこそ、3年間やり遂げることができたのだと思います。

その選手たちから、2名にインタビューしてみましたので紹介します。一人目は、スピードとパワー、そしていつでもおもいきりのある頼れるFW、人望の厚い片岡丈くん。もう一人は、甲田真大くん。落ち着いて試合の流れを観察し、チームに冷静な言葉、プレーを与えてくれる選手。彼のドリブル技術、「突破力」にも優れていますが、ドリブルとパス、動きで流れをつくることのできる貴重な選手です。



片岡 丈(かたおか じょう)くん

僕はジュニアユースに入った当初は、アバンの活動に加え、学校の活動もあったため十分に勉強に時間が割けませんでした。テストでも納得のゆく結果が得られませんでした。

そこで、授業をとにかく集中して受け、なるべく授業だけで理解できるようにしました。また、学校から帰ってきてアバンに行くまでの間や、アバンから帰ってきた後など、少ない時間でも机に向かうようにしました。そうすると、少しずつ点が取れるようになってきました。

勉強は反復が大事です。分からない問題があつたら、分かるまで何度も解きましょう。そうすれば、必ず成績

は伸びるはずですよ。

サッカーと勉強の両立は難しいことですが、不可能なことでは決してないので頑張ってください。

アバンは僕たちの成長を第一に考えてってくれています。練習の時には、コーチが一人一人に声をかけてくれます。

更に、僕たちのフィジカル強化のために、大きなおにぎりも作ってくれます(笑)。コーチが熱い人なので、時に僕たちに厳しい言葉を投げかけてきます。それも僕たちに強くなってほしいという気持ちからだと思っています。コーチのもとでサッカーをすれば人間としてもサッカー選手としても成長できると思っています。



甲田 真大(こうた まひろ)くん

僕はアバンの活動の中で、勉強とサッカーの両立を心がけていたので、苦労したということはありません。ですが、アバンにも勉強にも偏ることの無いように、テスト前の平日練習も休まずに参加するようにしていました。

短い時間で集中して毎日勉強して、それを習慣にすれば、両立はそれほど難しくはないと思います。

報告メールやサッカーノートも、勉強と同じように習慣にしていけば、ほぼ忘れることはないと思います。僕自身、サッカーノートや報告メールは忘れたことはありません。必ず、寝る前に報告メールをしていたの

で、それがいつの間にか習慣になっていたという感じです。

それなので、メールを始めた当初も三年生になった今も、それほど大変に思ったことはありません。

僕はアバンで活動してきて、自分自身の成長をとて感じることができました。皇山コーチは練習中、一人ひとりのプレーをよく見ていて、的確なアドバイスもたくさんしてくれる、色々なことに気を配ってくれているコーチだと思います。

僕が膝を怪我してしまって完治するまで、かなりかかった時もストレッチなどアドバイスをたくさんしてくれたからこそ、結果完治して今までサッカーを続けられたと思っています。

コーチは、いろいろな方法を使ってこのチームをより良くするために尽くしてくれたと思います。僕はこのチームをコーチも主導してくれたことで、東方大会に出場できたり、1部リーグに昇格できたり貴重な体験をすることができました。皇山コーチとアバンツァーレ、ジュニア時代にお世話になった前田総監督にはとても感謝しています。

これからはアバンを卒業するまで、受験本番に向けて努力していきます。

テクニカルレポート

今回は、「基礎」がテーマです。「基礎」と聞けば、「止める・蹴る・ドリブル」などの技術。または「個」と聞けば、自分の「武器」となるもの。例えば、「スピード」や「キック力やキック精度」といった自分なりの武器を考えます。

ただ、その武器を生かす手段を知らなければ、「優れた技術」なんていきません。

例えば、以下のような項目。

- ①周囲の状況が把握できていないので、テクニックを発揮できない。
- ②自分の前にスペースがあることに気づかないから、引いてボールを受けてしまい、スピード力を生かせない。逆サイドのどこに味方がいるか見えていない
- ③あるいはファーストタッチでそこにボールを置けないから、サイドチェンジのパスが出せない。

つまりは、そういった部分も含めたものが、「基礎基本」と呼ばれ、自分の武器を活かし、さらに磨きをかけるものです。

また、この基礎基本という部分では、ボールを受ける前の「判断力」や「サッカーについて考える能力」も含んでいます。

そうした、「基礎基本」を磨くことで、技術的なチャレンジも可能となります。

サッカーで繰り広げられる攻防の中でも、相手ゴール付近での「意外性」や「即興性」も大事です。そういった部分まで磨かれ、その選手のサッカー観も成長していきます。

選手みなさんの取り組みの中で、なににカントにしていただければと思います。サッカー観を磨いていきましょう。

皇山コーチの経験からアドバイス

今回は、「コーチング」の面白さについて紹介します。

スクール練習やチーム練習で、「コミュニケーション」や「コーチング」を求めていますね。試合中のコーチングの部分に関しては、選手として高めて、その楽しさを知ることでも一層楽しめると思います。

コーチがその面白さを知ったのは大学生のときでした。仙台大学に編入学し、サッカー部に入部して間もなく、センターバックになります。

それまでは、走力・体力、そして体格を活かしたFWとして動んでいましたが、まさかのDF。最初は気が進みませんでした。

ですが、選手として評価されるために決心し、活動をスタート。今まで自信のあった体格など恵まれている部分もあるので、やれると思っていましたが、、、そう簡単ではありませんでした。

センターバックには、技術も身体も、そして精神的な部分も揃っていること。戦術的にはDF陣の統率、比較的パスを受けやすいポジションということから、視野の広さが求められます。また、試合全体の「流れ」を感じることや守備では「危機察知能力」も必要です。

そこで、激しいポジション争いの中で、チームを勝利に貢献できる選手になるため、「観察力」と「コーチング」に積極的に取り組みました。

よく観察し、相手の癖や攻守のバランスまで観て、コーチングにより事前の準備を繰り返しながら攻撃にリズムをつくったり、時にはゴールまで関わったり、タイミングよくプレスし自分もボール奪取すること。

この一連の狙いがチームとして機能し、ボールを奪えたり、得点につながる面白さを知り、サッカーがさらに面白くなりました。皆さんもぜひ磨いてみてください。

平成30年度 ジュニアユース10期生 練習会・説明会「第2回」実施

練習会・説明会の日程

【練習会】

- 日 時：平成30年1月20日(土) 17時30分～19時30分
- 会 場：泉総合運動場(人工芝グラウンド)

【説明会】

- ※第1回にご出席できなかったご家庭はぜひお越しください。
- 日 時：平成30年1月21日(日) 18時～19時30分
- 会 場：柳生市民センター 2階 会議室

※ Facebook やアバン公式ホームページでも、ジュニアユースの活動や試合結果、練習会等の情報を掲載しております。ぜひご覧ください。